



◇ 近畿ゆめ通信 第267号 ◇



本メールマガジンは、近畿地方整備局管内の市町村長様をはじめ、日頃から当局にご指導等をいただいております団体、個人の方々に送信させていただいております。

皆様からのご意見ご感想をお待ちしています。

mailto: otayori@kkr.mlit.go.jp



2015年11月25日

目次

1. 「インバウンド効果を関西全域に」

近畿地方整備局 局長 山田 邦博

2. 「防災について」

近畿地方整備局 総務部長 黒川 剛

3. 「元気な地域づくりのために」

近畿地方整備局 姫路河川国道事務所長 朝田 将

4. 「山陰近畿自動車道早期実現促進大会が開催されました。」

近畿地方整備局 福知山河川国道事務所長 南後 和寛

5. 最近の動き

【1】『「道の駅」全国総会・シンポジウム in 田辺』を開催

近畿地方整備局 道路部道路情報管理官 西本 信弘

【2】「近畿歴史まちづくりサミット in 京都」が盛大に開催されました！

近畿地方整備局 建政部計画管理課長 藤本 真也

6. おたよりコーナー

『近畿の昔話』一びわこ号

高野 浩二

7. 事務局から



1. 「インバウンド効果に関西全域に」



近畿地方整備局 局長の山田邦博です。

ご存じのとおり、関西の外国人宿泊者数は、2007年から2014年の7年間で約2.6倍の1,085万人に増えました。関西はアジアからの外国人旅行者が多く、関西国際空港の利用者は9割近くがアジア系です。大阪の町を歩いているだけでも、関西弁よりも外国語を良く耳にします。

大変賑わっている関西地方ですが、これまで宿泊施設や移動手段の確保など訪日外国人旅行者の受け入れ環境が不十分ではないか、大阪や京都といった主要観光地以外の認知度が低いのではないかとといった指摘がなされてきました。

訪日外国人旅行者の受け入れ環境整備については、関西国際空港を軸に消費税免税一括カウンターの設置や、英語で観光案内が出来るインターナショナルビジターズタクシーの導入などが進められています。

さてこれからが今回の本題ですが、大阪や京都といった主要観光地以外の認知度は本当に低いのでしょうか。

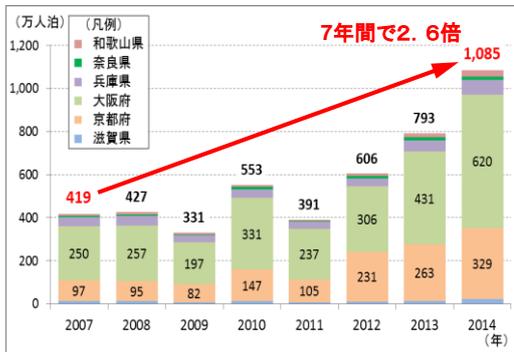
ビッグデータによると、主要観光地以外にも外国人旅行者が訪れているところが多々あります。城之崎や姫路などです。また未確認情報ですが、海外から大阪へのツアーでは、大阪近辺に宿泊地が取れないため、豊岡に宿を取るツアーもあるそうです。

大阪近辺の宿泊施設の整備が不十分という見方も出来ませんが、一方でこれは外国人旅行者を他の地域に誘導するいいチャンスと捉えることが出来るのではないのでしょうか。

ここで、北近畿豊岡自動車道が、八鹿氷ノ山インターチェンジまで延伸されたことにより、城之崎温泉の観光客が25%増加したという事例もあります。従って、主要観光地と地方を結ぶネットワークを整備することにより、関西国際空港から入国された外国人旅行者の方を地方の観光拠点に誘導することはそれほど難しいことではないと思われま

しかしながら、単にネットワークを構築するだけでは十分ではありません。魅力ある地域づくりとネットワーク構築は車の両輪です。ネットワークづくりは着実に推進していこうと思いますので、地域の方々におかれましては、今後とも、地域の観光資源のより一層の充実をお願いしたいと思います。

関西の外国人宿泊者数の推移



資料: 観光庁「宿泊旅行統計調査」



2. 「防災について」



近畿地方整備局 総務部長の黒川剛です。

7月31日付けで総務部長を拝命いたしました。今回の勤務が初めての地方整備局勤務であり、関西勤務になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

近畿地方整備局は、道路、河川等のインフラ整備、防災・減災、地域の活性化、業行政その他、多くの仕事を行っていますが、今回は私の前職との関係で、防災について書かせていただこうと思います。

近畿地方整備局に赴任する前は総務省消防庁で参事官を務めており、人命救助制度の企画立案、消防に関する国際協力、国際緊急援助活動に関する業務を担当していました。それとともに、大規模な災害が発生したときには、消防庁の災害対策本部で緊急消防援助隊のオペレーションに参加する任務を与えられていました。その経験からですが、被害状況の把握・分析、道路や河川等の応急復旧等、整備局やTEC-FORCEが行っている活動が災害発生時には非常に重要であり、緊急対応のベースとなっていることを違う立場から実感しました。

今回、近畿地域整備局の一員となって改めて感じたのは、整備局職員が防災に取り組む高い士気を保持しているということです。地域の皆さんの安全・安心を確保すべく、皆さんの期待に応じて頑張ろうという意欲に燃えています。私も近畿地方整備局の一員として、地域の皆さんの安全・安心を確保するために努力していきたいと思います。この拙文を読んでくださっている皆さんからも、頑張っている近畿地方整備局職員に応援をいただければ幸いです。



3. 「元気な地域づくりのために」



近畿地方整備局 姫路河川国道事務所長の朝田将です。

7月に姫路河川国道事務所長を拝命した朝田と申します。大阪・枚方に生まれ、京都・伏見、奈良・西大寺育ちの私ですが、高校を卒業して以来となる近畿でのくらしとなります。日本を支える近畿、関西地方の元気・活性化のため取り組んでいきたいと考えています。どうぞ、よろしく願いいたします。

昨今、南海トラフ巨大地震がいつ起こってもおかしくないと言われています。また、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化しています。日本全体の経済・社会活動の大動脈ともいえる国道2号BP（交通量：約12万台/日！）は、災害発生時に地域の復旧・復興において大きな役割を果たすことが期待されます。加古川などの浸水想定区域には多くの方々の生活、経済活動が存在しています。災害発生時の機動的な対応はもちろん、平時から所管施設についてどのような管理を行っておくべきか、またできるのか、他機関との連携はどうあるべきかなどについて考え、対策に取り組んでまいります。

先日、加古川流域の首長方々との、豪雨時における住民避難行動を促すための意見交換会が開催されました。河川管理者である我々に対して情報の精度向上・具体化などを求める声をいただきました。一方で、特に地域住民の命を預かる立場である首長には、それら情報の量・質ばかりに頼ることなく地域で何が起こり得るのかという“洞察力”、そして勇気をもって避難勧告等を出すための“決断力”が重要との意見をいただきました。非常時に判断を求められた際には、ともすれば孤独ともいえる環境におかれるであろう立場からのこの意見を前に、改めて河川管理者として首長、地域住民のため取り組むべく決意を持ったところです。

話は変わりますが、姫路市では平成の大修理を終えた姫路城が今春にグランドオープンし、連日、多くの観光客がこの地を訪れています。ぜひ、玄関口となっている駅前にも注目してください。まちづくり・再開発の中に歩道拡幅、無電中化、そして空間利用のための工夫がたくさん施されています。駅から一望できるようになった“白鷺”の優美な姿が、地元の思いのこもった景観の中で引き立っています。訪れる方々にもきっとおもてなしの心とともに伝わっているでしょう。地域活性化のための観光に注目が集まっていますが、大小を問わない社会資本がこれを支えていると思います。これからも、お預かりしている施設をきちんと管理するとともに、地域目線でその活用にも取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。



4. 「山陰近畿自動車道早期実現促進大会が開催されました。」



近畿地方整備局 福知山河川国道事務所長の南後和寛です。

7月18日京都縦貫自動車道が全線開通となり、丹後地域では観光客の増加などストック効果が大きに現れています。一方、山陰近畿自動車道は、日本海沿岸国土軸を形成し、京都縦貫自動車道と一体となることで広域幹線道路網を形成する重要な道路ですがミッシングリンクとなっており、ますますその早期整備が重要になっています。

こうした中、山陰近畿自動車道・大宮峰山道路が国の直轄権限代行により新規事業化され、地元の方は大きな喜びに沸き、その早期完成と更なる事業延伸に期待が高まっています。このため、地元住民及び関係団体の皆様が一丸となり、更なる整備促進に向けた機運を高めるべく、11月22日促進大会が開催されたものです。

丹後・地域高規格道路推進協議会の主催により、アグリセンター大宮（京丹後市）において開催され、西田昌司参議院議員、主催者の各首長、議長をはじめ多くの地元関係の皆様約300名が参加されました。

大会では多々見舞鶴市長の開会宣言、中山京丹後市長の主催者挨拶、参議院議員西田先生、城福京都府副知事、巽京都府議会副議長が来賓挨拶され、また、演題「地域活性化と道路ネットワーク」として、国土交通省 森道路局長の基調講演をなされました。

その後、意見発表として、井上宮津市長、三崎京丹後市議長、京丹後まる宿おかみの会中江さん、久美浜中学校3年村岡さんからそれぞれ山陰近畿自動車道早期完成に向けた期待と地域活性等についての発表がありました。

吉本伊根町長より大会決議が提案され出席者全員の賛同のもと決議された後、桐野舞鶴市議長の「がんばろう三唱」、山添与謝野町長の閉会宣言で、大盛況で促進大会が無事成功裡に終わりました。

当所としましても「大宮峰山道路」の早期完成に向け、京都府、関係自治体の皆様と連携を図りながら事業に取り組んで参りますので、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



5. 最近の動き



【1】『「道の駅」全国総会・シンポジウム in 田辺』を開催

近畿地方整備局 道路部道路情報管理官 西本 信弘

11月17日和歌山県田辺市の紀南文化会館と田辺市役所において「道の駅」全国総会・シンポジウム in 田辺を開催しました。当日は降りしきる雨にもかかわらず、全国から「道の駅」関係者など約1200名の方々の参加を頂き、「道の駅」の活動促進方策やサービスの向上、地域連携、防災機能などについて話し合われました。また、同時に開催した「道の駅」まつり in 田辺とあわせ、参加者並びに地元の皆様方のご協力のもと盛大に執り行われました。

シンポジウム開会にあたり、仁坂吉伸和歌山県知事から来賓のご祝辞を頂くとともに、地元選出の衆議院議員「二階俊博」先生からのビデオレターでのお祝いのメッセージをご披露させて頂きました。

講演会では、社会資本整備審議会など国や地方公共団体の委員会座長、委員を多数歴任されている筑波大学システム情報系社会工学域教授の石田東生（いしだはるお）先生から『「道の駅」地方創生への期待と課題』と題してご講演を頂きました。「特に大学との連携や活用は重要であり、研究と実践の場として「道の駅」の新しい動きも生まれる」とのご助言を頂きました。

シンポジウムでは4つの分科会「①観光振興（座長：和歌山大学教授 藤田武弘先生）、②地域産業振興（座長：和歌山大学名誉教授 橋本卓爾先生）、③地域防災（座長：大阪大学教授 板倉信一郎先生）、④地域福祉（座長：神戸大学大学院准教授中塚雅也先生）」に分かれてパネルディスカッション形式で進められました。各会場では、全国の市町村長様から各テーマに関する先進的かつ効果的な取り組みについての先進事例の発表と会場からも多くのご意見等を頂き、各コーディネーターの先生により纏めて頂きました。

全体報告会では、全体コーディネーターの石田先生から『今回の4つの分科会全てで共通していることは、多様な取り組みと総合的な戦略を持ち、地域資源に付加価値を付け地域が連携した取り組みを進めているものが実績をあげている。地方創生には「道の駅」は大変重要な取り組みである。各地域の良い取り組みを学ぶことも本連絡会の使命である』と纏められました。

最後に『全国「道の駅」シンポジウム in 田辺』の締めくくりとして、真砂（まなご）田辺市長から『全国の「道の駅」が互いに手をつなぎ、すべての「道の駅」を共に発展させていくことを宣言する』との田辺宣言が発表されました。なお、次回（来年）の開催地は「北海道川上郡弟子屈町（てしかがまち）」に決定されました。

シンポジウム終了後、ご当地和歌山県紀南地域の12市町村（「道の駅」22駅）及び和歌山県、近畿地方整備局で『「道の駅」防災利用に関する基本協定書』の締結式を執り行ないました。本防災協定は、「道の駅」の防災利用に関する基本的な事項を定めることにより、今後発生が予想される南海トラフの巨大地震などの災害発生時において、地元自治体と道路管理者などの関係機関が連携・協働し、効果的かつ迅速な防災活動と啓発に努めることを目的として締結しました。

第二部の交流会には、「道の駅」関係者約300名が集い、森昌文道路局長並びに近畿地方整備局長も参加し、全国の「道の駅」の関係者との情報や意見交換と交流が図られました。この様に有意義な1日となりましたことは、全国から参加されました市町村長様並びに関係者の方々、開催地の田辺市様、また「道の駅」事務局の皆様方に感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

最後に、「道の駅」に関する相談等ございましたら、お気軽に私どもまで連絡頂ければ幸いです。（道の駅担当：06-6942-1141「内線 4114」又は交通対策課「内線 4511、4613」）

【2】「近畿歴史まちづくりサミット in 京都」が盛大に開催されました！

近畿地方整備局 建政部計画管理課長 藤本 真也

秋も深まった11月22日（日）の午後、紅葉が一段と色づく京都市において、近畿地方整備局・京都市共同主催の「近畿歴史まちづくりサミット in 京都」が盛大に開催されました。

（長浜市、彦根市、近江八幡市、京都市、宇治市、向日市、堺市、奈良市、斑鳩町、天理市の10都市の市長等が参加）

近畿地方で初めての開催となった同サミットには、全国各地から、老若男女400名近くの大変多くの方々に来場頂きました。会場となった上七軒歌舞練場は、華やかな舞台、優雅な庭園など、まさに京都らしい歴史・風情を体感することができ、サミットは終始はなやかな形で進行しました。

サミットの冒頭、主催者の近畿地方整備局長、京都市長から開会挨拶があり、続いて、国土交通省都市局公園緑地・景観課長から「全国における歴史まちづくりの動き」について基調報告を頂きました。

その後、各市長から各都市の概要をはじめ、歴史まちづくりに関する取組実績・今後の展開、観光PR等について、それぞれプレゼンテーション頂きました。

各市長には、会場内の拍手の中、音楽流れる舞台袖から花道を通して登場頂きましたので、まるで舞台役者になりきって発表頂けたのではないのでしょうか！？

サミットのクライマックスでは、参加市長全員に登壇頂き、今後の近畿地方における歴

史まちづくり施策の方向性、取組方針を定めた共同宣言について、各市長の全会一致をもって採択頂きました。

共同宣言は、開催都市の京都市長から代表して発表頂き、

- ・10都市が先頭に立って歴史まちづくりの取組をより一層推進すること、
- ・歴史まちづくり認定意義の発信力強化、周知に努めること、
- ・歴史まちづくりの情報発信に関する具体的連携を進めること、
- ・サミットを継続的に開催し、近畿全体で歴史まちづくりの機運を高めること、

がそれぞれ決定されました。

最後に、来年度開催地の斑鳩町副町長から挨拶を頂き、惜しまれながらサミットは閉会となりました。

サミット開催地として全面的に御協力頂いた京都市をはじめ、参加都市の市長、関係職員の皆様に御礼申し上げます。

今後とも、近畿地方整備局と各都市とが力を合わせて、近畿地方における歴史まちづくりの発展・推進に努めて参りたいと考えております。

それでは来年度、斑鳩町で開催される第2回サミットでお会いしましょう！！



6. おたよりコーナー



これは、今から50～60年ほど昔、皆様の先輩たちが活動した環境の情景のひとコマです。堅い話は一切ぬきで、ほぼ私の記憶によるものです。間違いの多々あることはお許しのうえ、往時を偲んでいただければ幸甚に存じます。

『近畿の昔話』 一びわこ号一

高野 浩二

昔日の東海道が、畿内に入る入口の峠が、かの有名な、逢坂峠。ここに平安時代当初から設置されていたとされる、逢坂山関がありました。今日、たまたま、京阪電鉄京津線大谷駅にほど近い国道沿いの、旧大津警察署逢坂検問所跡のすぐ横に、大きな“逢坂山関址”の碑がありますが、実際の関跡の所在は定かでなく、少し北の長安寺辺りではないかとも云われているようです。

逢坂山関、と云えば、まず、蟬丸。「これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関」

蟬丸は、平安時代はじめの歌人、目が不自由であったが、琵琶の名手とも伝えられ、音曲の神として祀られています。この逢坂山にも、旅の安全を守る神々と共に蟬丸を祀る、い

くつかの蟬丸神社が存在します。

余談になるかもしれませんが、私の記憶に残る検問所は、トラック一台まるごと計れる、大計量機を備えるなど、逢坂山の名にふさわしいものでありました。また、この坂道には、長方形の花崗岩を敷き詰め、車の轍に合わせてレール状に石を刻みこんだ“車石”が、多数、出土していることも面白い。

国道は、さらに西へ、名水“走井”のある月心寺を左に見て、京都東インターで名神高速道路と結ばれ、1km余をほぼ南下、さらに、東海道新幹線沿いに西進し、東山トンネルを経て東山五条に至る、いわゆる東山バイパスのルートを選ぶが、このバイパスが開通したのは、昭和40年代初頭であり、それ以前は、東海道本線の南側を西に向かい、山科駅の西約1kmの幅員狭小な立体交差を潜り、御陵（みささぎ）、日ノ岡、蹴上（けあげ）を経て、東山三条に達していた。この御陵以西、三条大橋までの間は、京津電車が、路面電車に近いかたちで、道路の中央に乗ったり、あるいはすぐ横に接したりする形で、運行されていたように記憶します。

この頃、京阪電車は大阪天満橋から京都三条まで、京津電車は京都三条から浜大津まで、お互いの京都三条の駅は接していました。両者を結んで、大阪から大津まで直通させたい、と考えるのは当然の流れです。幸いにして、両線とも電圧、軌間の基本規格は共通していましたが、京津線の急カーブに耐え得る車体、集電装置の併設、プラットホームからの高床扉と路面からのステップつき低床扉の併設、などの問題がありました。まず車体は、台車を3台とし中央の台車の上は、回転可能な滑節型通路とし、いわば折れ曲がる構造とし、ポールとパンタグラフとを併設するなど、ある意味では異様な電車が開発されました。それでも、それは、当時の模型マニアの憧れの的になっていたことも事実です。この電車が、愛称“びわこ号”であります。

南禅寺、平安神宮など京都自慢の景観。文明開化の代表、京都疏水に結ばれる、浄水場、発電所、インクラインなどの間を縫うような旧国道の蹴上の坂を、うねうねと走る、可愛い、この“びわこ号”の姿を、想像しながら、是非、昔日を懐かしんでいただきたいものです。



7. 事務局から



日頃は「近畿ゆめ通信」をご愛読いただき感謝申し上げます。

今回、事務局でピックアップした政策情報は下記の項目です。ご参考にして頂ければ幸いです。

- (1) 近畿地方整備局が取り組んでいる主な事業の進捗状況について（11月10日）

<http://server-jp.imrworldwide.com/cgi-bin/b?cg=0&ci=mlitkkr&tu=http://www.kkr.ml>

